

令和6年度 学校努力点

1 名古屋市学校教育努力目標

ともに学び 自分らしく生きる

- 主体的・対話的で深い学びの実現を目指して、一人ひとりの興味・関心や能力、進度に応じた「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図る。
- 子どもが、自他のよさに気づき、互いを尊重しながら自分らしく生きることができるようするために、安心・安全で幸せな居場所となる学校づくりを推進する。

2 本校教育目標（校訓）

- | | |
|-----|---------------------------|
| 清 心 | 強い意志と清らかで柔軟な心をもつ生徒の育成を図る。 |
| 自 学 | 自ら学ぶ態度の育成を図る。 |
| 実 践 | 丈夫な身体をもち、自ら実践する生徒の育成を図る。 |

3 本年度の学校努力点とその推進計画

(1) 本年度の学校努力点テーマ

互いの良さを大切にして、自分らしく生きる力の育成

(2) テーマ設定の理由

今後、生徒たちが生活していく社会は、I o Tやビッグデータ、A I等の技術革新が産業を取り巻く環境に大きな影響を与えるようになっていく。このような社会で生徒たちが生きていくためには、社会や人生をよりよいものにしていこうという目的を自ら考え、多様な他者と協働していくことができる力、生涯にわたりたくましく生きていくための基礎となる心身の健康など、新しい時代に求められる資質・能力を身に付けていく必要がある。そのため、今後の社会情勢や令和3年度全面実施となった学習指導要領の内容を踏まえた上で努力点のテーマを設定することとした。

そこで、昨年度に引き続き、本年度の努力点のテーマを、名古屋市学校教育の重点項目である「主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善の推進」「自他のよさに気づき、自分らしく生きることのできる子どもの育成」を柱に、「互いの良さを大切にして、自分らしく生きる力の育成」とする。その中で、生徒の実態を踏まえた手立てを設定し、努力点のテーマの育成を目指す。

(3) 名古屋市学校教育の重点項目の具体化

① 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善の推進

- ・ I C Tを最大限活用した「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実
 - ※ 「個別最適な学び」とは、いわゆる「個に応じた指導」のことであり、「個に応じた指導」に当たっては、「指導の個別化（指導方法・教材や学習時間等の柔軟な提供・設定）」と「学習の個性化（生徒一人一人に応じた学習活動や学習課題を設定し、生徒自身の学習が最適となるように調整）」の二つの側面を踏まえ、I C Tの活用も含め、生徒が主体的に学習に取り組むことができるようにしていく。

※ 「協働的な学び」とは、探究的な学習や体験活動を通じて、生徒同士をはじめ多様な他者と協働し、主体的に課題を解決することで探究的な学習の資質を高め、持続可能な社会の作り手となることができるよう、必要な資質・能力を育成していくことである。

- ・ 子どもが互いに関わり合い、支え合い、認め合うことを基盤とした学級づくり
 - ・ 実生活に生きてはたらき、各教科等の基本となることばの力の育成
- ② 自他のよさに気付き、自分らしく生きることのできる子どもの育成
- ・ 自他の命を大切にして、自他の存在を尊重する態度を育てる教育の推進
 - ・ 社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を身に付けるためのキャリア教育の充実
 - ・ 「なごや子ども応援委員会」との協働や、関係機関と連携した支援体制の充実
 - ・ 生涯を通じてすすんで運動に親しむための指導の充実

(4) 本年度の重点的な取り組み

本年度の名古屋市学校教育の重点目標の一つである「主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善の推進」を踏まえ、学習指導と地域との連携に目を向けた実践を行い、努力点テーマの目指す生徒の育成を図っていく。

① 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実について

令和3年度全面実施となった学習指導要領の主体的・対話的で深い学びの授業実現に向けて、各教科における「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図る授業を念頭に置き、授業実践を進めていく。

<具体的な教育活動例>

◎ 個別最適な学び

子どもが自己調整しながら学習を進めていく。

- 指導の個別化（一定の目標を全ての子どもが達成することを目標とし、異なる方法で学習を進める）

・ 必要に応じた重点的な指導 ・ 進度別、習熟度別指導

- 学習の個性化（異なる目標に向けて、学習を深め、広げる）

・ テーマ別コース選択による学習 ・ プロジェクト型学習

◎ 協働的な学び

異なる考えが組み合わさり、よりよい学びを生み出す。

・ 話し合い、情報共有 ・ 共同作業

② PBL（プロジェクト型学習）の実践について

名古屋市教育委員会の教育施策であるナゴヤ・スクール・イノベーションのプロジェクト型学習の実践指定を受けて、中学校版PBLの実践を行う。PBLとは、生徒自身が課題を設定し、課題解決のために計画を立て、探究し、成果を発表する探究的な学びである。

生徒は、自分の問いからプロジェクトのゴールを設定し、生徒自身が探究したいという気持ちを大切にして、試行錯誤しながらゴールに向けて学習を進めていく。主に、総合的な学習の時間で実践を行い、本年度は名古屋市内の学校に授業を公開する（各学年1回程度）。また、総合的な学習の時間だけではなく、各教科等においても「課題解決的な学び」や「探究的な学び」を取り入れていく。

③ 地域との連携について

学校評議員、並びに、PTA役員や保護者の意見・提言を基に、家庭や地域社会の相互理解・連携を推進し、地域に根ざした開かれた学校づくりを推進する。そのために、学校通信・学年通信・学級だより・保健だより・学校ホームページ等による広報活動を充実させ、実践の具体的内容について情宣活動を行い、学校・家庭・地域社会等の連携を図る。

なお、本年度も、学習指導部・生徒指導部・特別活動指導部・健康安全指導部の4部会で推進していく。また、この推進は、学校だけで行うのではなく、家庭や地域などの連携も視野に入れて進めていく。

(5) 各部会における育てたい資質や能力、態度

① 学習指導部 (※名古屋市立小中学校指導方針より)

- 各教科の授業を通して、児童生徒一人一人の学習状況や興味・関心を的確に把握し、基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等を育み、自ら課題を解決しようとする力を育成する。

② 特別活動指導部 (※名古屋市立小中学校指導方針より)

- 集団や社会の形成者としての見方・考え方を働かせ、様々な集団活動に自主的・実践的に取り組み、互いのよさや可能性を発揮しながら集団や事故の生活上の課題を解決することを通して、必要な資質・能力を育成する。

③ 生徒指導部

- 学校生活全般を通して、礼儀正しさや時間などの基本的生活習慣、集団生活のルールやマナーなどを身に付けさせるとともに、自主的に判断し、行動することができる健全な生活態度を育成する。

④ 健康安全指導部

- 望ましい生活習慣を身に付けさせ、健康・安全で活力のある生活を送ろうとする態度を育成する。

(6) 学校努力点を達成するための各部会の役割

担当部会	目標	目標とする生徒の姿
学習指導部	互いの良さを大切にして、自分らしく	考えを発表し合うことで、他者の考えの良さに気づき、自分の考えをもつことができる生徒
特別活動指導部		自他の良さを認め合い、互いに心を通い合わせ、自分の良さを伸ばすことができる生徒
生徒指導部	生きる力の育成	挨拶の意義や必要性を理解し、自主的に挨拶することで互いに認め合う生徒
健康安全指導部		自分のことだけでなく、一歩進んで人のためになる行動をすることで、互いに認め合う生徒

(7) 推進計画

- ① 企画委員会・職員会議で到達目標を確認する。
- ② 各部会で、生徒にどんな姿が見られたらよいとするのか、目標とする生徒の具体的な姿を決める。
- ③ 各部会で目標とする生徒の具体的な姿を達成するための手だてを決定する。
※ 手立てを考える際には、全体で共通したものとするのか、各教科や学級

担任ごとの手だてとするのかを決める。

(例)○ 全体で共通した手だて

担当部会	目標とする生徒の姿	手だて
学習指導部	仲間の考えの良さを認め合うことで、自分の考えを深め広げることができる生徒	<ul style="list-style-type: none"> ・個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実 ・ICT機器の活用 ・課題解決的な学習や探究的な学習の充実

(例)○ 教科ごとの手だて

担当部会	目標とする生徒の姿	手だて
学習指導部	話し合い活動を通して、互いに良い点や改善点を出し合うことで、自分の考えを深め広げる力が育つ生徒	(国語)話し合い活動におけるスモールステップの充実 <ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えをまとめる時間の設定 ・ロイロノートを使った小グループの話し合い活動 ・ロイロノートを使った全体や大グループでの話し合い活動

④ 各部会で、生徒や保護者、職員、地域の人に実施するアンケートの質問内容を決定する。

※ アンケートの質問内容は、目標とする生徒の姿が達成されたか、手だてが有効であったかを検証するためのものとする。

(例)

担当部会	目標とする生徒の姿	手だて	アンケートの質問内容
生徒指導部	自主的に時間を意識できる生徒	日頃の声掛け	時間を意識して行動することができたか。

⑤ 実践を行う。

⑥ 修正を行う。

⑦ アンケート結果や学校評価を基に検証し、課題を明らかにした上で、来年度の方向性を決める。